

講義名	定性的方法論研究			授業形態	
担当教員	清水 信年	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	0	履修開始年次	1年生

主題と概要

当科目では、定性的手法を用いて研究を行なうための基礎的な方法論を学びます。修士論文のような学術研究のための定性的手法に加え、実務家がマーケティング・リサーチを行なう際の定性的な手法についても取り扱います。

到達目標

- (1) 定性的な調査・研究手法が定量的な手法とどう異なるのか、理解する。
- (2) 定性的方法論の基本的な知識を身につけ、自身の研究活動に活用できるようになる。

提出課題

毎回の講義で、事前課題（レポート）の提出を求めます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題は、次回講義でコメントを付記し返却します。

評価の基準

毎回の講義で提出される事前課題（レポート）の内容を、成績評価の対象とします。また、その事前課題に関して講義中に数回のプレゼンテーションを担当することを、受講者全員に課します。
 毎回の事前課題：80%
 プレゼンテーション：20%

履修にあたっての注意・助言他

特になし。

教科書

.消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ。	ラッセル・ベルク他	碩学舎	3300	9784502175510
----------------------------	-----------	-----	------	---------------

参考図書

その他

藤本隆宏他、『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣。
 田村正信、『経営事例の物語分析』白泉社。
 野村 康『社会科学の考え方』名古屋大学出版会。
 プリント資料は、適宜配布します。

授業計画

1. イントロダクション
2. はじめてみよう：定性調査プロジェクトの始め方
3. 深層インタビューと観察法
4. エスノグラフィと観察法
5. オンライン上の観察とネットノグラフィー
6. データ収集のための道具
7. 学術調査のためのデータ分析・解釈・理論構築のアプローチ
8. 実務家のための分析・理論・プレゼンテーション
9. プレゼンテーション・公開・共有
 10. 事例研究（ケース研究）
 11. 歴史研究
 12. 定性的方法を用いた研究計画
 13. 定性的方法を用いた研究計画
 14. 定性的方法を用いた研究計画
 15. 定性的方法を用いた研究計画

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E：グループワーク
<input type="checkbox"/> O：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> K：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義で提出する事前課題（レポート）の作成には、教科書の当該の章を予習する必要があります。また、講義後には学んだことを自身の研究に活かすことを想定した復習を行なう、ということをお奨めします。
 * 教科書の予習と事前課題の作成、講義後の復習：各2時間30分×11回=27時間30分
 * 「研究計画」の準備とプレゼンテーション：2時間30分×1回=2時間30分

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

流通科学研究科の学位授与方針である「理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的な方法論を身につけていること。」「研究者として、流通科学諸分野における豊かな学識と研究能力を身につけていること。」「または高度専門職業人として、より実践的・課題解決的な能力を身につけていること。」「特定の流通科学分野において、専門的な研究を行い、修士論文あるいは課題研究の成果を完成させていること。」、のいずれに関しても当科目の2つの到達目標を達成することで習得できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

特になし。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり（当科目との関連なし）。

備考
